

武中の風



<発行>
鹿児島市立
武中学校
鹿児島市武 3-42-1

長崎で思うこと

校長 前田 浩二

5月15日から二泊三日で二年生と一緒に修学旅行へ行ってきました。天候にも恵まれ、有意義な三日間でした。

一日目の長崎市では、原爆被害に関する施設を見学したり、平和祈念像へ千羽鶴を献花したり、被ばくされた方の講話を聴いたりして、平和の大切さを学んできました。

そのような中で、私も生徒たちに少しでも原爆にまつわる話をしました。

私の伯父は長崎の原爆で亡くなりました。伯父は長崎の某企業のもとで、働きながら学校を出してもらい、戦争当時は長崎にある飛行機の部品等を開発する研究所に技師として勤めていました。

しかし、戦争末期、病気を患い、長崎を離れ、療養のため故郷に帰って来ました。そのまま家族のもとにいれば、原爆によって命を絶たれることもなかったのでしょうか、仕事のこと心配だと言って、病气も治りきらなまま長崎へと発ってしまったのです。当時、小学生だった私の父は、列車

に乗り込む兄（伯父）を見送るとき、いつもの見送りとはいち、なぜか涙があふれ出て止まらなかつたそうです。

それからわずか一週間後、原爆は投下されました。

伯父の勤めていた研究所は爆心地に近い浦上にあつたため、悲惨な状況でした。ただ、伯父は大きな鉄骨の下敷きになっていたので、遺体だけは燃えずに残っていたそうです。名札から伯父と分かり、遺体は長崎入りした祖父に引き渡されました。そのとき、伯父はまだ十九歳でした。

小さい頃から父にこの話を聞かされて育つた私は、修学旅行で長崎へ行くたびに、十九歳という若さで鉄骨の下敷きとなつて亡くなつた伯父のことを想像せずにはいられません。



まだまだ生き残っていたかっただろうな、やだ。やりたいことがたくさんあつただろうなと思うと胸が苦しくなります。同時に、大きな鉄骨をもへし曲げる想像もできないほどの爆風や熱線、放射線を発生させる兵器に強い怒りを感じます。生徒たちに平和の大切さを伝えるとき、「その時代に生まれなくてよかつた」で、終わらせてはなりません。

職場体験学習

二年生が修学旅行に行っている間に、三年生は職場体験学習を行いました。六十もの職場が武中学校の体験学習を受け入れてくださり、三日間生徒にとつて素晴らしい体験が出来ました。

☆体験学習写真コーナー



市総体日程について

部活動	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	予備日
バスケットボール	○	○	○	○	
サッカー	○	○	○		17日
軟式野球	○	○	○	○	20・21日
バレーボール	○	○	○	○	
ソフトテニス	○	○	○		16・20日
卓球			○	○	
弓道	○女	○男			
陸上7・8 水泳15 柔道15 バドミントン14・15 新体操15 剣道15					

非行防止教室



西署の警察官が講師となり一年生に「初期型非行の防止について」グループ学習やクイズを交えながら授業を行いました。